

一般社団法人日本粘土学会 2020 年度第 4 回常務委員会議事録

日 時：令和 2 年 8 月 22 日（土）13:00～15:00

会 場：国際文献社アカデミーセンター 4F 第 1 会議室および WEB 会議室

出席者：常務委員(15 名)：山崎淳司 (WEB)、河野元治 (WEB)、中川昌治 (WEB)、佐藤 努 (WEB)、  
蛭名武雄 (WEB)、日比野俊行 (WEB)、伊藤健一 (WEB)、川俣 純 (WEB)、鈴木  
正哉 (WEB)、田村堅志 (WEB)、樽田誠一 (代理：岡田友彦 (WEB))、手束聡子 (WEB)、  
横山信吾 (WEB)、鈴木憲子 (WEB)

監事(2 名)：月村勝宏 (WEB)、志々目正高 (WEB)

事務局：川島朝子

欠席者：小口千明

成立確認：常務委員総数 15 名の過半数 8 名

出席常務委員 14 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2020 年度事業報告 (資料 1)

(1) 学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長 (粘土科学)、蛭名編集委員長 (Clay Science) からそれぞれ資料を  
もとに報告があった。

(2) 研究発表会・見学会等の開催

第 63 回粘土科学討論会 (埼玉大学) の開催について、小口実行委員長に代わり佐藤常  
務委員長より資料をもとに開催報告があった。

第 64 回粘土科学討論会 (信州大学) の準備状況について、樽田実行委員長の代理とし  
て岡田友彦先生より報告があった。

(3) シンポジウム・セミナーの開催

資料をもとに、田村企画委員長より第 63 回粘土科学討論会でのシンポジウムの報告と  
第 64 回粘土科学討論会でのシンポジウム準備状況が報告された。

(4) 参考粘土資料

鈴木正哉参考粘土委員長より、資料をもとに報告があった。

(5) 広報

横山広報委員長より、資料をもとに報告があった。

(6) 渉外

川俣渉外委員より、資料をもとに報告があった。2024 年度開催予定のアジア粘土会議・  
米国粘土学会における Co-chair について、米国の荒井先生から、日本、韓国、中国から  
とタイの小川誠先生を加え 4 名ではどうかという打診があったことが報告された。

AIPEA における本会 web ページ管理者について、今後の委員長交代も想定して、「横山広  
報委員長」を「広報委員長」に変更して総会資料とすることとした。

(7) 表彰

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。現在活動中のグループについては、8月末締めで報告書をお願いしているとのことであった。

(9) 庶務

手束庶務委員より、資料をもとに報告があった。

河野前会長より名誉会員推薦についての問合せがあったが、今年度は該当者がいないので議題としない旨が佐藤常務委員長よりあった。

(10) 常務委員会及び理事会

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

2. 2020 年度会計中間報告及び監査報告 (資料 2)

伊藤会計委員から、資料をもとに報告があった。報告資料の順番を変更して貸借対照表を最初にした。本年度の未払金は学術振興賞のみあること、また前受金が減少したのは討論会が開催されないためであることが説明された。収入は予算に対して 50 万円程度プラス、また支出は 80 万円ほど抑えられ、財政状況が改善しつつあることが示された。会費の未納者については前回より 2 名の支払いがあり、1 名は海外からカード払いであった。バックナンバーの在庫について、経費を節約するために「各号 10 部保管」で理事会に提案することとした。討論会で販売する分については倉庫に保管せず現地実行委員会で保管をしており、現在は埼玉大学から信州大学に送付済であることが報告された。

引き続き志々目監事より監査報告があり、適正に運営されていると報告がなされた。

3. 2021 年度事業計画 (資料 3)

各担当委員より 2021 年度の事業計画が資料に基づき説明された。第 1 回 Clay Science 編集委員会を 8 月から 9 月に変更した。

4. 2021 年度予算 (資料 4)

伊藤会計委員より、資料をもとに説明があった。正会員の減少と討論会が行われないことによる学生会員の入会が見込めないの、会費が減収となること、また討論会からの収入がないので来年度は大幅な減収となる見込みであることが示された。討論会からの収入に頼らずに学会が運営できるように、なんらかの新規事業が必要であるとの見解があった。

佐藤常務委員長より、学会として Zoom を契約することが示された。前回の常務委員会で、総会には人数の関係で使えないのではないかとの意見があったが、過去の実績より 100 名以上は出席していないことから、100 名までの契約で問題ないとの見解が示された。

5. 2020 年度総会の日時、場所、議案及びその内容 (資料 5)

佐藤常務委員長より、資料にもとづき、総会における第 5 号議案から第 7 号議案及び報告事項についての説明があった。

6. 2020 年度総会の準備、進行等 (資料 6)

佐藤常務委員長より、資料にもとづき 2020 年度総会の進行、準備について説明があった。総会案内の送付時に google フォームで出欠の記入をお願いする。欠席時の委任状は任意なので、委任したくない場合は備考欄のその旨を記入してもらうこととした。また総会においては、Zoom に入ったらチャットに氏名を記入することで出席確認をし、手束庶務委員から佐藤常務委員長に報告をする。また電波状態などで会議への参加が困難な場合があるので、出席者には総会の最後に再度チャットに氏名を記入してもらい、出席でよいかの確認を取ることとした。

#### 7. 2020 年度表彰式の進行

佐藤常務委員長より表彰式の進行について説明があった。選考理由の説明は各選考委員長となるので、八田先生に出席の確認をとる。表彰状は山崎会長が朗読後授与し、受賞者が Zoom 上に映るように佐藤常務理事がインタビューを入れる。また、AIPEA のニューズレターに必要となるので、川俣渉外委員長が式の写真撮影をすることとした。

#### 8. 第 64 回粘土科学討論会について

樽田実行委員長の代理で、岡田理事から説明があった。前回常務委員会で報告の通り、会場は 2021 年 9 月 13 日から 17 日で予約を入れてあるが、前日の若手の会などを考慮すると 14 日、15 日の開催が有力候補であると考えている。12 月までには日程を確定したい。現時点では新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないことから、感染予防対策が不可欠である。対面での講演、サテライト会場の設置などについては、1 月の理事会までには決定したいと考えている。また懇親会についても、可能かどうかまたどんなスタイルでできるかなどについて 1 月の理事会で諮りたいとの説明があった。佐藤常務委員長より信州大学の基準に則って進めて欲しいとのお願いと、実行委員会への感謝の言葉があった。

#### 9. その他

特になし。

以上、審議の上承認された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和 2 年 8 月 24 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 佐藤 努 ㊟

監 事 月村 勝宏 ㊟

監 事 志々目 正高 ㊟